漫遊記

自然のジェットコースター。
秋風を切る、急流の川下り。

球磨川下り

黒い岩肌をぬいながら、白くうず巻く淵へとすべり落ちる。激しい流れにもまれ、右へ左へときしむ船からは、賑やかな歓声が響く。

日本三急流のひとつに数えられる「球磨川」。寛文四年（一六六四）、林正盛によって開削され、明治末期まで、人吉と八代間の往来路として利用された。現在、観光川下りとして余りにも有名である。

人吉市の発船場から、球泉洞下の着船場まで約十九キロ、所要時間二時間三十分、三十三の瀬はスリルと変化に満ち、観光客を楽しませる。